



®

Lever Hoist

レバーホイスト

TLH-080・TLH-100
TLH-160・TLH-320

取扱説明書

この度は **TRUSCO**® レバーホイストをお買い上げいただき誠にありがとうございます。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みになり正しくお使いください。またお読みになった後は大切に保管し、必要な時にお読みください。

レバーホイストは重量物を扱う関係上、安全対策をおこたると品物の破損や、場合によっては生命に関わる重大事故につながる可能性があります。

必ずこの取扱説明書を熟読し、作業上の安全への知識を習得した上でご使用ください。

また記載内容のすべてを理解できない場合は、この商品をお使いにならないようご注意ください。

もくじ

1. 使用前の準備	1
2. 正常操作の使い方	
【操作の仕方】	1
3. 空転操作の使い方	
【空転の準備/空転の解除/使用後の処理/巻下げ不能時の対応】	1
4. レバーホイスト分解・整備の手引き	
【分解、組立の仕方/整備と点検の仕方/仕様表】	2
5. 部品図	3
6. レバーホイスト 安全厳守事項	4

1. 使用前の準備

1. チェーンに軽く油をさして、リンクの動きをよくし、チェーンのタテリンクが端から端まで、まっすぐにねじれないようにしてから使ってください。
2. 上、下フック、チェーンにムリな力がかからないように、上フックとつり荷が一直線になるように取付けてください。(4頁説明③)

2. 正常操作の使い方 (負荷がかかっている状態での操作)

操作の仕方



キリカエレバー
DOWN

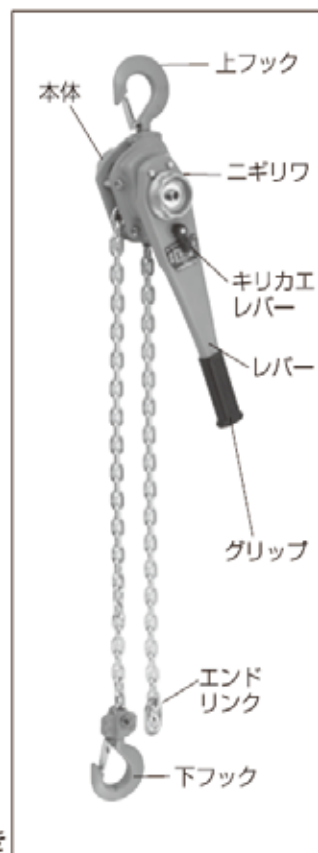
1. 巻上げの仕方

キリカエレバーを左⇐(UP)方向にします。
グリップをつかんで往復運動をします。
荷は時計方向に動いただけ巻上げられます。
巻上げるまでにチェーンがタルンでいる時は、
ニギリワを時計方向に回すだけでチェーンの
タルミがとれます。

2. 巻下げの仕方

キリカエレバーを右⇨(DOWN)方向にします。
グリップをつかんで往復運動をします。
荷は反時計方向に動いただけ巻下げられます。

* 正常操作中はキリカエレバーを右、左、
中央のどちらを動かしても常にブレーキ
はきいています。



3. 空転操作の使い方 (無負荷の状態でチェーンの長さを調節する方法)

空転の準備

1. キリカエレバーを中央の位置「N」(中立)に合わせます。

自動空転式ですから、この操作だけでチェーンの右側、左側の長さ調節ができます。

参考：空転操作がしにくい時には、キリカエレバーを右⇨(DOWN)にしてから
ハンドルを1～2回転かします。

次にキリカエレバーを「N」にしてください。

空転の時チェーンを強く引きすぎると、ブレーキがかかりチェーンが動きません。
その時も「参考」と同じようにしてください。



下フックに荷重がかかった状態、つり荷が残っている状態では、絶対に空転操作をしてはけません。

【理由】キリカエレバーを「N」にして、荷が引つかかったり無負荷になる状態となってしまう場合、空転操作でチェーンを引いた場合と同じ状況になり、荷が倒れる、荷が落ちる場合があります危険です。



空転の準備

キリカエレバー
N

空転の解除

1. 下フックに荷がかかるまで、エンド側のチェーンを引っばります。

キリカエレバーを左⇐(UP)方向にし往復運転します。

参考：空転状態でも下フックに荷重をかければ自動的にブレーキがかかります。

使用後の処理

1. 汚れや水気をよく拭き取り、チェーン、フックの回転部分に油をさして下さい。
2. 格納は湿気のないところに、つるしておいてください。



空転の解除

キリカエレバー
UP

【△注意】安全にご使用いただくために、取扱説明書の内容を熟知しない方はこの商品の操作をしないでください。

4.レバーホイスト(TLH-080・TLH-100・TLH-160・TLH-320) 分解・整備の手引き

分解、組立の仕方

※数字は次頁の部品図番号です。

【△注意】分解、組立の際には、指定の標準部品(チェーンを含む)以外は使用しないでください。

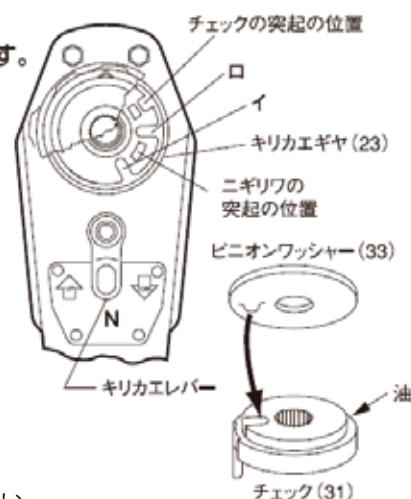
1. チェーンのはずし方：キリカエレバーを中立(N)にし、空転の状態にしてから、39(エンドリング)をはずして36(下フック)側の35(チェーン)を引いてはずして下さしてください。
2. ハンドル、ブレーキ部分の分解：部品図の右端から順番に分解して下さい。
3. ギヤ部分、中央部分の分解：部品図の左端から順番にしてください。
4. 組み立て方：部品図の組番の順序で組み立てて下さい。
5. ニギリワ部分の分解と組立

〔分解〕

- ① 34(ピニオンナット)を外して32(ニギリワ)と31(チェック)をとります。

〔組立〕

- ① キリカエレバーを中立(N)にします。
- ② 23(キリカエギヤ)には、常に13(左巻バネ)が作用しているために、キリカエギヤを指先で時計方向へ、一杯しっかり回して、キリカエギヤが反転しない状態にする。
- ③ 31(チェック)の突起を右図の位置に入れます。
- ④ 32(ニギリワ)の突起を溝の狭い方に入れます。(イとロの間)
- ⑤ 33(ピニオンワッシャー)の凸を31(チェック)の凹を合わせ34(ピニオンナット)で締めつけます。



整備と点検の仕方

※数字は次頁の部品図番号です。

【△注意】商品を使用しない場合でも定期的(6ヶ月～1年を目安)に点検をしてください。

部品に変形(伸び、キズ、マモ一、ワレ、曲がり等)が発生した場合、必ず部品交換をしてください。

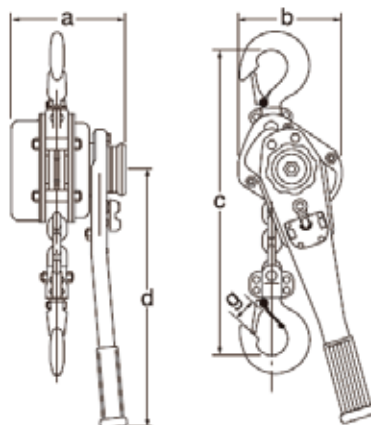
1. <分解・組立の仕方-1>により、35(チェーン)、39(エンドリング)、36(フック)、38(ボルト)等に変形がないか。
2. <分解・組立の仕方-2>により、24(ハンドル)、19(ブレーキカバー)、32(ニギリワ)、31(チェック)、17(ブレーキバン)、14(ツメ)等に変形がないか
3. <分解・組立の仕方-3>により、10(ギヤカバー)、6,7,8(ギヤ)、1,5(ガワイタ1,2)、11(上フック)、3(ガイド)、4(ケリ)、2(ロードシーブ)等に変形がないかを調べてください。
4. 組立に際しては、各部品を洗い油等でよく洗ってください。また回転部分はグリスで注油をしてください。
5. 2枚の17(ブレーキバン)と、その両面に接触するマサツ面はよく拭いてください。注油する必要はありません。

仕様表

(数値は変更されることがあります)

略 号	TLH-080	TLH-100	TLH-160	TLH-320
定 格 荷 重 (t)	0.8	1	1.6	3.2
標 準 揚 程 (m)	1.5	1.5	1.5	1.5
自 重 (kg)	6.0	7.2	9.8	16.6
フック間最短 (mm)	295	325	350	425
手 引 力	(kg)	21	23	27
	(N)	206	226	265
チェーンの線径 (mm)	5.6	6.3	7.1	9.0
寸 法	a (mm)	146	146	161
	b (mm)	119	126	146
	c (mm)	295	325	350
	d (mm)	256	256	368
	g (mm)	27	30	34

●揚程はご要望により変更いたします。



【△注意】安全にご使用いただくために、取扱説明書の内容を熟知しない方はこの商品の操作をしないでください。

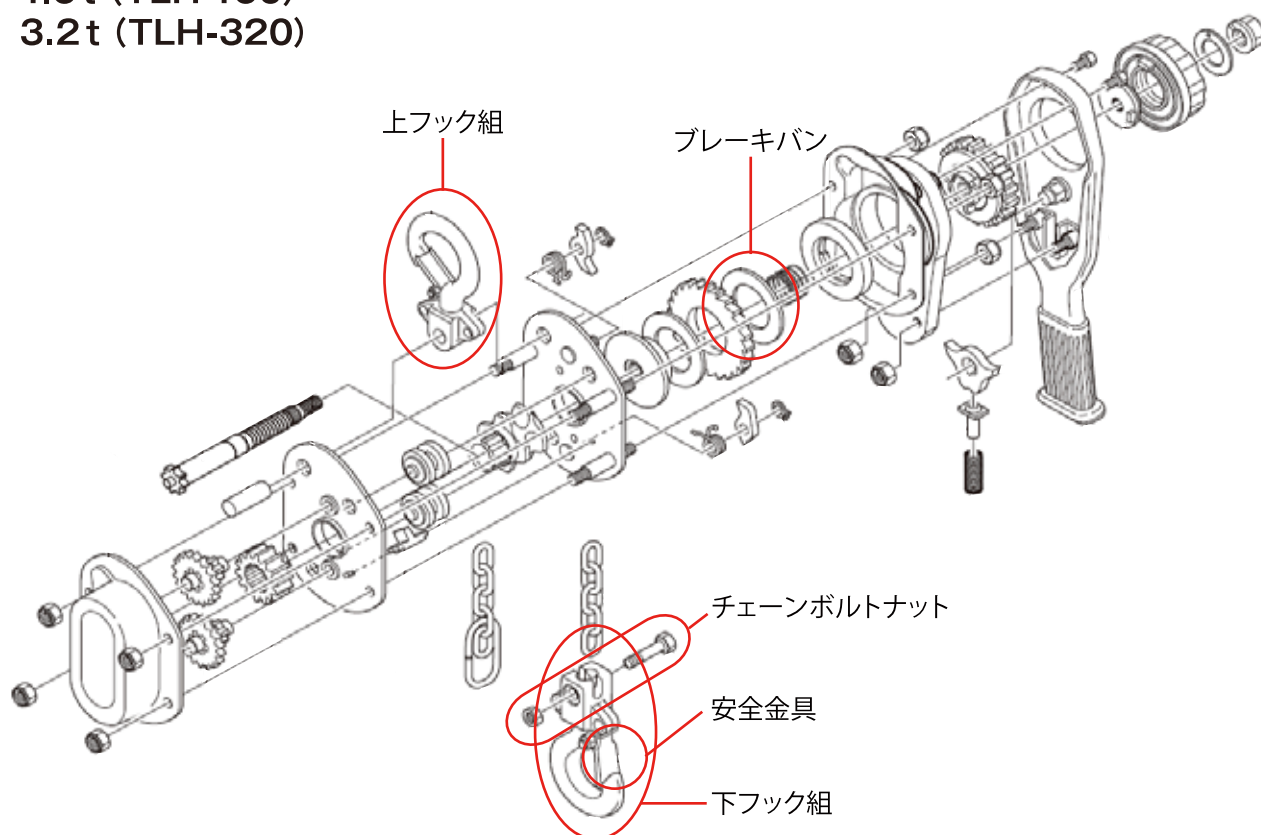
5.部品図

0.8t (TLH-080)

1.0t (TLH-100)

1.6t (TLH-160)

3.2t (TLH-320)



【△注意】 分解、組立の際には、指定の標準部品 (チェーンを含む) 以外は使用しないでください。

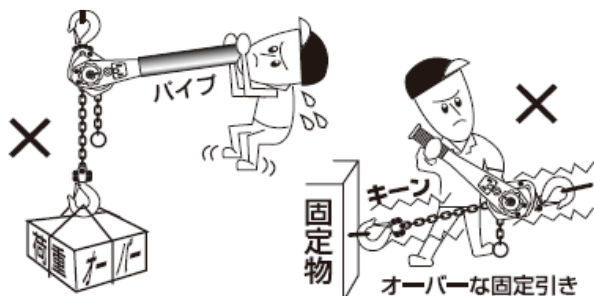
組番	部 品 名	員数	組番	部 品 名	員数
1	ガワイタ1組	1	22	オシワ	1
2	ロードシーブ	1	23	キリカエギヤ	1
3	ガイド	2	24	レバーホンタイ組	1
4	ケリ	1	25	グリップ	1
5	ガワイタ2組	1	26	キリカエツメ	1
6	G1ギヤ	1	27	オシバネ	1
7	ピニオン	1	28	オシピン	1
8	G2.3ギヤ組	2	29	レバーボルト	2
9	ギヤカバー組	1	30	レカナット	2
10	ギヤカバーナット	4	31	チェック	1
11	上フック組	1	32	ニギリワ	1
12	フックピン	1	33	ピニオンワッシャ	1
13	ツメバネ	2	34	ピニオンナット	1
14	ツメ	2	35	ロードチェーン	1
15	スナップリング	2	36	下フック組	1
16	ハブ	1	37	安全金具	2
17	ブレーキバン	2	38	ロードチェーンボルト・ナット	1
18	ラチェットギヤ	1	39	エンドリング	1
19	ブレーキカバー組	1			
20	ブレーキカバーナット	4			
21	カラバネ	1			

6. レバーホイス 安全厳守事項

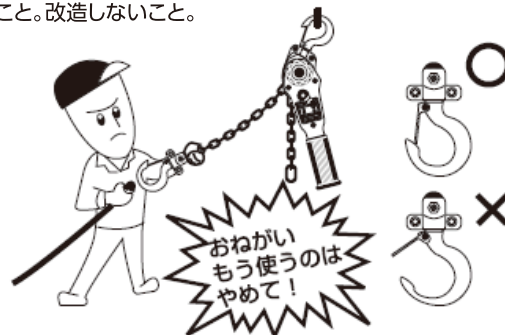
⚠ 警告

レバーホイスは重量物を扱う性質上、安全対策をおこたると品物の破損や人命にかかわる事故が発生する危険があります。

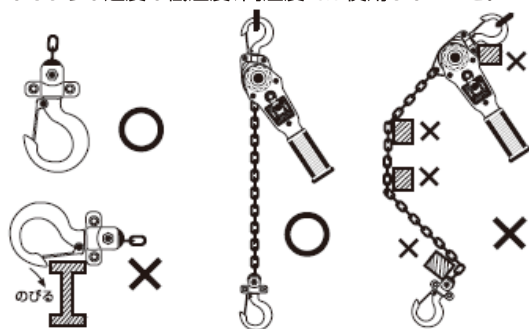
- ①表示トン数以上の荷重を加えないこと。
レバーを故意に長くして使用しないこと。



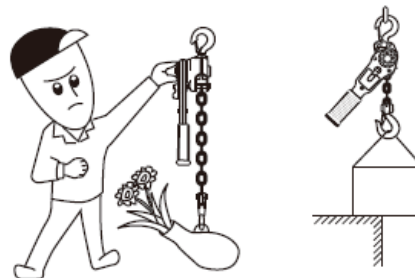
- ②オーバー荷重操作をして、フックやチェーンなど部品に変形が生じたものは使用しないこと。
また、本体を投げ、落とすなど変形の原因になる行為はしないこと。改造しないこと。



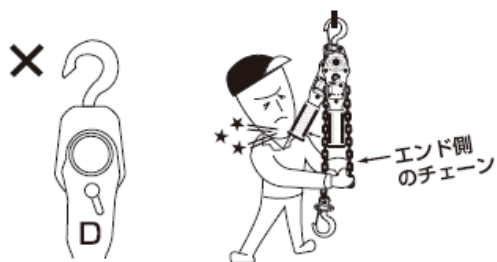
- ③上下フックとチェーンが曲がらずに一直線になるように使うこと。
荷に巻きつけるような使い方をしないこと。また、部品変形の原因になるような過度な低温、高温では使用しないこと。



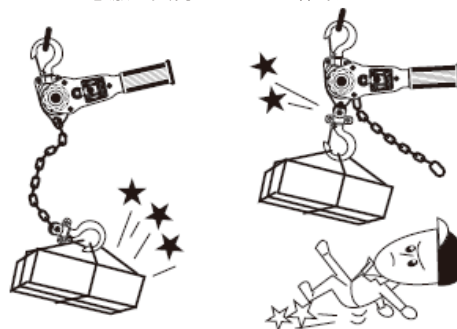
- ④巻戻し作業によりつり荷を巻き降ろするとき、つり荷を障害物にひっかけたり、持ち上げたりして、無負荷状態にならないよう注意すること。つり作業中にキリカエレバーを「N」にしないこと。
ブレーキが外れて荷が落下する場合があります。
また上下フックとチェーンにショック的圧力がかかる使い方はしないこと。



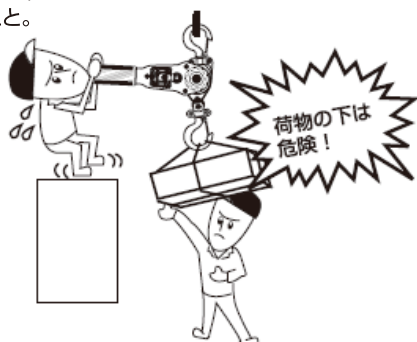
- ⑤キリカエレバーを(DOWN)にしたままでエンド側のチェーンを引かないこと。レバーが回り顔に当たりケガの原因になります。



- ⑥巻き下げすぎ、巻き上げすぎをしないこと。また、荷を落とすなどチェーンに急激な負荷がかかる作業をしないこと。



- ⑦つり荷の下には絶対に立ち入らないこと。手や足などを荷の下に差し込んだりしないこと。
また、つり荷に乗ったり、レバーホイスやチェーンにぶら下がったりしないこと。



- ⑧2丁づりはしないこと。2台以上のレバーホイスの連結使用をしないこと。
また、つり荷を長時間放置したままその場を立ち去らないこと。

